池田名誉会長

光の言葉 幸福の曲

奮い起こせ 民衆の底力を

夕日に照らされ、大阪城の天守閣を包む空が、黄金色に染まった。2007年（平成19年）11月、池田名誉会長が撮った１枚である。

庶民から天下人に駆け上がった秀吉の築城。ふんだんに金が施され、「錦城」とも「金城」とも呼ばれた。豊臣が滅び、徳川の天下が定まった「大坂夏の陣」から、今年で400年。城自身も再建を繰り返しながら、権力者の盛衰を、たくましく生きる庶民の群像を、見つめてきた。

この錦の城を見上げては、難攻不落の「錦州城」に思いを重ね、名誉会長と築いた民衆城を守らん、との誓いをたぎらせる関西の同志。

2007年の訪問の折、名誉会長は呼び掛けた。「艱難があればあるほど燃え上がる、人間生命の常勝不敗の一念」――これこそ、わが「関西魂」である、と。

空を染める夕焼けは、明日の栄光を予感させる。晴れわたる「５月３日」へ、恐れなき民衆の大行進は始まっている。

聖教新聞
2015年（平成27年）３月29日（日）

民衆の叫びは、
真実の力である。
民衆の賑やかな行進は、
社会を動かす。
民衆の力ほど、
強きものはない。
そして、民衆の団結ほど、
強大にして
不敗のものはない。
民衆の団結には、
誰人たりとも敵わない。
いかなる時代にあっても!
いかなる世界にあっても!

人生には、
断崖絶壁に立たされるような
試練が何度もある。
しかし、その時こそ、
自分自身が
いまだかつてない
底力を発揮できる。
ゆえに、何があっても、
嘆かず、あきらめず、腐らず、
今できることを、
一つまた一つ、
勇敢に誠実に忍耐強く、
全身全霊でやり切っていく。
そこから、必ずや反転攻勢して、
信頼と勝利の上げ潮を
起こしていける。

「民主」の時代とは、
民衆が強く、聡明になり、
社会の主役となることである。
人間の哲学という
土台なき民主主義は脆い。
だからこそ、
我らが民衆の
正義の大城は、
断固として勝ち、
そびえ立たねばならないのだ。

励ましは
英語で「エンカレッジ」。
勇気(カレッジ)を
吹き込むことだ。
ゆえに 励ましのあるところは、
勇気が満ちあふれる。
その勇気を一切の中心にして
固い団結をつくり、
強気で、前へ、さらに前へと、
歩みを進めていくのだ。
いかなる険路に突き当たっても、
それを乗り越え、
勝利へ、勝利へと
大波を起こしていく、
民衆の「勢い」と「団結」が、
我ら創価の底力である。